

第9回感染症研究拠点整備に関する連絡協議会議事要旨

- 1 日時 平成29年6月8日(木) 18:00~18:38
- 2 場所 長崎大学事務局第2会議室(3階)
- 3 出席者 3名
沢水清明(長崎県福祉保健部長)、大串昌之(長崎市市民健康部長)、調漸(長崎大学学長特別補佐、副学長)
- 4 欠席者 1名
喜田 宏(長崎大学感染症共同研究拠点長)
- 5 オブザーバー
小林秀幸(文部科学省研究振興局先端医科学研究企画官)
- 6 事務局(長崎大学)
早坂大輔(感染症共同研究拠点施設・安全管理部門准教授)、安藤豊幸(同部門担当課長)、嶋野武志(同拠点地域連携部門教授)、阿南圭一(同拠点総務部門担当課長)、堤達行(施設部長)
- 7 列席者
長崎県: 村田誠(福祉保健部医療政策課長)、本土靖(同課総括課長補佐)、藤原勝浩(同課課長補佐)、竹野大志(同課係長)
長崎市: 高木規久子(市民健康部地域保健課長)、島田清隆(同課疾病対策係長)
長崎大学: 平山謙二(熱帯医学研究所長)、山崎雅彦(研究国際部長)、他

8 議事

会議の冒頭に、調議長から、文部科学省の小林企画官がオブザーバーとして列席している旨の紹介があった。

(1) 委員等の紹介について

事務局(阿南課長)から、感染症研究拠点整備に関する連絡協議会(以下「三者連絡協議会」という。)の委員構成を変更するための規約改正及び長崎大学感染症共同研究拠点の設置について、資料1及び資料2に基づき報告があった。

引き続き、新任委員について資料3に基づき紹介があった後、新任委員で本日出席の大串委員から挨拶があった。

(2) 報告事項

事務局(阿南課長)から、前回の三者連絡協議会の開催以降の長崎大学の感染症に関する取組みについて、資料4に基づき報告があった。

(3) 長崎大学の感染症研究拠点の中核となる高度安全実験(BSL-4)施設の基本構想(中間まとめ)について

調議長から、資料の「長崎大学の感染症研究拠点の中核となる高度安全実験(BSL-4)施設の基本構想(中間まとめ)」(以下「基本構想(中間まとめ)」という。)については長崎大学における感染症研究拠点整備に関する地域連絡協議会(以下「地域連絡協議会」という。)及び長崎大学高度安全実験施設に係る監理委員会(以下「監理委員会」という。)においても既に説明し、各委員から意見を伺ったものである旨の報告があった後、

事務局（阿南課長）から、本年度のスケジュール、基本構想（中間まとめ）及び直近の会議等で出された主な意見、地域理解に向けた取組み、長崎大学高度安全実験（BSL-4）施設整備に関する専門家会議（以下「専門家会議」という。）の設置及び開催予定について、資料5-1、資料5-2、資料5-3、資料6、資料7及び資料8に基づき説明があり、引き続き、大略次のとおり意見交換が行われた。

（大串委員）今後、基本構想の策定、実施設計と進んでいく重要な時期であり、この基本構想で施設のハードとソフトの両面において概要が示されることになるので、基本構想（中間まとめ）に関して何点か意見・要望等を述べたい。

- 1 地域連絡協議会や監理委員会でも意見が出されているように、もっと分かりやすい表現で世界最高水準の安全性について、ハードとソフトの両面で具体的な内容を盛り込んで欲しい。
- 2 市民の安全・安心の観点から、責任体制を明確にする必要があるため、地域住民向けの危機管理対応を担う部門を明確にして欲しい。
- 3 基本構想策定後も、マニュアル作成を含め、検討・調整しなければならない項目が多数あると思うが、早期に具体的なスケジュールやそれに応じた広報計画を策定して欲しい。このスケジュールや計画に基づき、確実に取り組んでいくことが、地域住民や市民の安全・安心につながり、「地域との共生」において重要となる「信頼」を長崎大学が得ることにもつながると考えるので、しっかりと取り組んで欲しい。
- 4 先日、市外の住民から新聞に投稿があった。全市的な周知も必要であると思われるので、大学が実施する市民向け講演会等でBSL-4に関する説明を行うなど、地域住民に限らず、全市的な周知の充実を図って欲しい。

（事務局（阿南課長））世界最高水準の安全性については、しっかり整理し、いただいた意見、指摘等を反映させたい。専門家会議等外部からの意見も取り入れつつ、世界最高水準の安全性を目指したい。

（調議長）先日のドイツのBSL-4施設の視察を含め、世界の先進国の現状について資料を収集しているので、提示できる範囲で提示し、検討していただきたいと考えている。

（事務局（阿南課長））責任体制について分かりづらいという指摘については、地域の皆様方に迷惑をかけないように緊急時に対応する体制を基本構想に書き込みたい。また、特に、住民の方々に関心の高い情報開示や緊急時対応などの事項について、なるべく具体的に今後のスケジュールを示していきたい。

（調議長）今まで周辺住民を中心に説明会等を行ってきたが、それだけでは不足していると感じている。先日の上五島の方からの新聞投稿に対しても大学からの回答を新聞に掲載してもらうように準備中である。また、先日はロンドン大学のピオット学長が来学された際にBSL-4に関する講演会等が行われた。長崎県や長崎市の協力を得ながら、今後も色々な機会をとらえながら全市的な情報提供をしていきたい。

（沢水委員）基本構想のスケジュールについて、ブレイクダウンした具体的な取組みを落とししていく必要があると思うが、アクションプランなどを作成するのか。今後、どのような形で進めていくのか伺いたい。

（事務局（阿南課長））地域において関心の高い項目は地域連絡協議会等でブレイクダウンしたいと考えている。情報については積極的に開示していきたいと考えているがどうい

った形で開示していけばいいのかについても地域連絡協議会等で協議していきたい。緊急時対策の構築については、地域との連絡体制等の原案を作成し、地域連絡協議会等を通じて市民の声を聴きたいと考えている。

(沢水委員) アクションプランを作成するのではなく、構想に沿って、個々具体的に検討していくということか。

(事務局 (阿南課長)) そうである。

(沢水委員) 長崎県・長崎市から「世界最高水準の安全性の実現」「地域との信頼関係の構築」「国と連携したチェック体制の構築」の3点を要請している。世界最高水準の安全性の実現については技術的な話であり監理委員会等で議論していただくことになると思うが、地域との信頼関係をどのようにして構築していくかが重要であると考えている。県民・市民が安心できるような情報の伝達には丁寧な対応が必要であり、もう少し周知方法を工夫し「見える化」を図っていただきたい。

また、資料6の地域連絡協議会や監理委員会からの指摘にもしっかり対応して欲しい。(調議長) 世界最高水準の安全性の実現については、世界最高水準の実態を明らかにしつつ、皆様のご意見をいただきながら、それに引けを取らないよりレベルの高い安全性を確保した施設を造りたいと考えている。「見える化」については、工夫してやっているつもりであるが、今後も努力したい。

(大串委員) 情報の出し方の問題については、出すタイミングと如何にして内容をわかりやすく出せるかが重要であり、ご配慮いただきたい。

(大串委員) 既に国にお願いしていることであるが、小林企画官が列席されているので、改めて国に対して次のことをお願いしたい。

国においては、長崎大学のスケジュールに合わせて監理委員会を開催し、専門的な見地からチェックを行うなど万全を期し、今後も国が果たすべき役割を確実に実行して欲しい。また、地域住民の安全・安心を確保するため、施設の建設、維持・管理において、適切な予算を確保して欲しい。

(小林企画官) 監理委員会においては、大学に対する意見とともに、国に対しても意見をいただいております。国としてもしっかり取り組んでいくし、大学に対しても必要な支援・指導を行っていききたい。

今後のスケジュールについては、基本構想の段階で各論的なところまで細かく全体的なスケジュールを示すのは難しいが、大学と協力しながら検討していきたい。

予算については、監理委員会においても運用開始後の維持費などのことも考慮する必要があると指摘をいただいております。安全性確保のための中長期的な予算確保の必要性について文部科学省としても認識しているところである。

(調議長) 本日いただいた意見等は、次回の地域連絡協議会及び監理委員会等にも報告するとともに、学内でもよく検討して、今後確定する基本構想に反映したい。

(4) その他

事務局 (阿南課長) から、次回の開催日程については、調整の上、連絡する旨の連絡があった。